

共通教育の間接評価の試行結果と そこから見えた課題

2014年度 大学教育学会ラウンドテーブル
学士課程教育における共通教育の質保証
—直接評価と間接評価の開発と統合について—

白川優治(千葉大学)

本報告の課題と概要

▶ 本報告の課題

- ▶ 本課題研究において、共通教育の質保証のために間接評価と直接評価を接合させていくにあたり、どのような方向性が考えられるか、間接評価の試行結果をもとに検討する。

▶ 概要

- ▶ これまでの経過の確認
- ▶ 試行調査の概要
- ▶ 試行調査からみた「間接評価」の可能性と限界
- ▶ 間接評価と「直接評価」との連携の方向性

直接評価と間接評価の統合 テーマ1と3との連携

学習行動調査

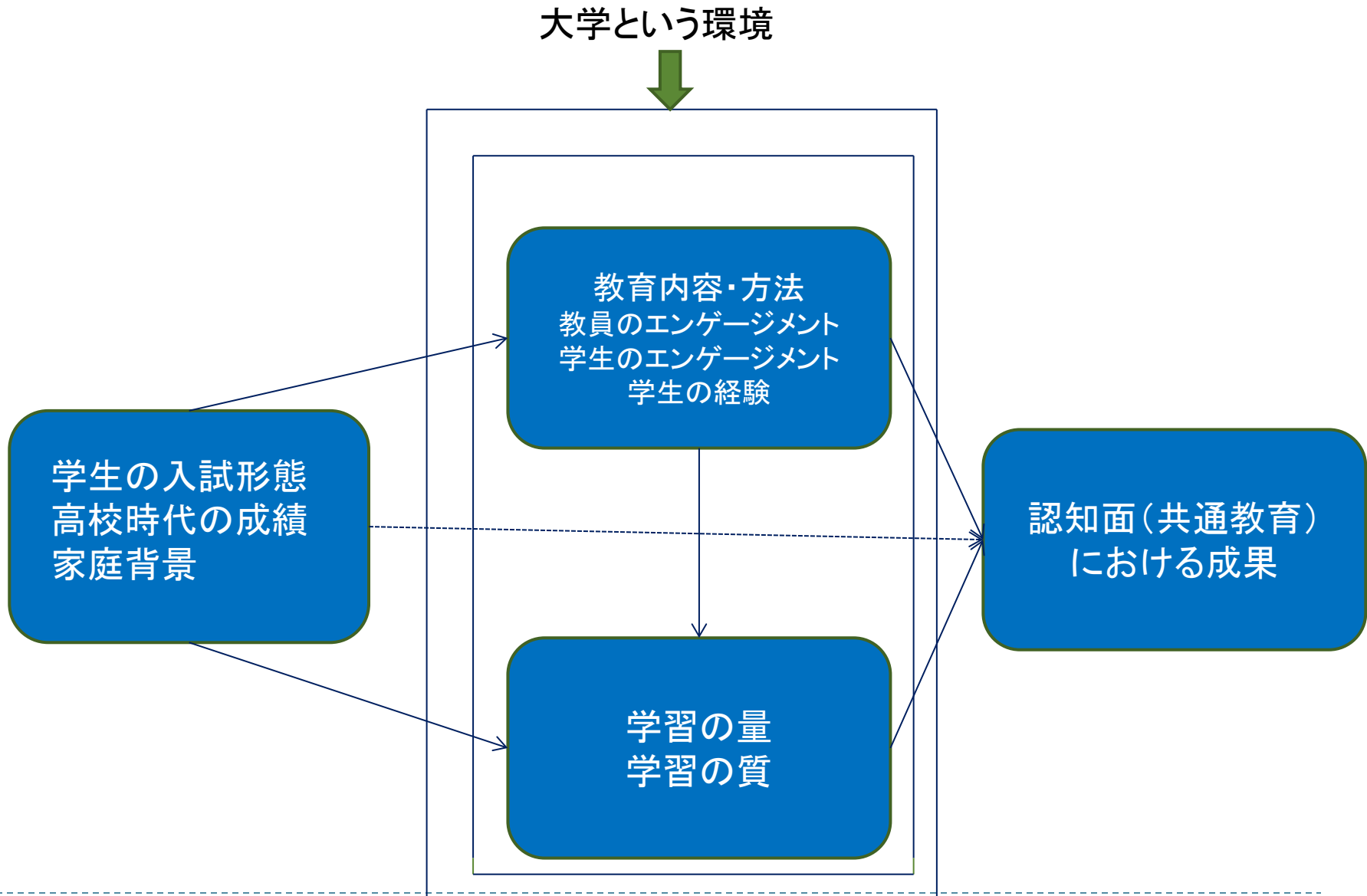
学習過程に関する
間接アセスメント

ルーブリック

学習成果に関する
直接アセスメント

共通教育アセスメント
学習成果の統合的な
評価の開発へ

教学マネジメントの支援
教育の内部質保証のエビデンス



進捗状況と計画

「大学生学生調査」試行調査の実施

- ▶ 国立A大学で2013年11～12月にかけて試行調査
- ▶ 対象 共通教育を受講している学生のうち1年生
おおよそ200名前後新生を抽出
- ▶ 分析 2～3月 →質問項目の修正→改訂版質問紙の策定
- ▶ 2014年度新生を対象に複数の協力校において
改訂版質問紙調査を実施

共通教育における学修成果の間接評価

▶ 試行調査の概要

- ▶ 実施対象校：国立A大学
- ▶ 実施時期：2013年12月～2014年1月（2013年度後期）
- ▶ 実施方法：全学共通教育の授業科目において授業終了時に配布し、受講生に回答を依頼（実施授業数4）
- ▶ 回答数：295／今回の分析対象：1年次生207名分

▶ 回答者内訳概要

②学年

①男女比

	人数	パーセント
男性	167	56.6
女性	123	41.7
不明・未記入	1	0.3
合計	290	100.0

	人数	パーセント
1年生	207	70.2
2年生	47	15.9
3年生	27	9.2
4年生	13	4.4
不明・未記入	1	0.3
合計	295	100.0

調査票と調査項目

JSLs2013

大学生学習調査 2013 年

調査ご協力をお願い

学生の皆さん

本調査は、皆さんの大学での学習について調査して、大学教育の改善に資するために実施します。ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、皆様の回答が他の人に知られることは絶対にありません。また、回答できない箇所は空白にしてください。その他、ご不明な点がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

2013年11月

大学生学習調査研究プロジェクト
同志社大学高等教育・学生研究センター
研究代表 山田礼子
Email: rc-jcirp@mail.doshisha.ac.jp
HP: <http://rc-jcirp.doshisha.ac.jp/kaken>

(1) ※大学から特別に指示があった場合にのみ、下記の欄に学籍番号を書き入れてください。

学籍番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(2) あなたの性別をお答えください。(1つだけ選んで○をつけてください)

1. 男性 2. 女性

(3) あなたの現在の在学状況を教えてください。(1つだけ選んで○をつけてください)

1. 1年生(回生) 4. 4年生(回生) 7. 科目等履修生
2. 2年生(回生) 5. 5年生(回生)以上 8. その他
3. 3年生(回生) 6. 大学院生

(4) あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。

(もっとも適切なものを1つを選んで○をつけてください)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 人文学(文学、哲学、歴史学など) | 10. 生命科学(生物学、遺伝学、生化学など) |
| 2. 宗教学(宗教学など) | 11. 獣医学(獣医学など) |
| 3. 心理学(心理学など) | 12. 医学(医学、歯学、薬学など) |
| 4. 法学・政治学(法律学、行政学など) | 13. 医療サービス(看護学、保健学など) |
| 5. 経済学・経営学・商学・会計学 | 14. 家政学(家政学、生活科学、栄養学など) |
| 6. 社会科学(人類学、社会福祉学など) | 15. 教育学(教育学、教員養成教育など) |
| 7. 理学(数学、物理学、化学など) | 16. 芸術(美術、造形、音楽、デザインなど) |
| 8. 工学(土木工学、電気工学など) | 17. その他() |
| 9. 農学(農芸化学、畜産学など) | |

(5) あなたは留学生ですか。(1つだけ選んで○をつけてください)

1. はい 2. いいえ

▶ 調査項目

- ▶ フェイスシート(性別・専攻分野)
- ▶ 所与条件(高校成績・家族状況(ファーストジェネレーション)・志望順位)
- ▶ 入学後の経験
- ▶ 大学の各種支援
- ▶ 生活時間の状況
- ▶ 成長認識
- ▶ 満足度
- ▶ 成績状況

調査項目と分析モデルの関係

大学という環境

認知面での成果

所与条件

家族・高校成績
・志願順位

入学後の経験

受講経験: 10項目
学習態度・経験: 13項目

大学の支援

学習・生活支援: 7項目

学習

時間配分: 11項目

生活時間

時間配分: 11項目

成長認識

能力項目別: 19項目

満足度

能力項目別: 17項目

充実実感

項目別: 5項目

学修成果

成績(自己認識)

学修成果

成績データ・達成度

本報告の問い

- ①「間接評価」は、どのように活用することができるか。
- ②「間接評価」と「直接評価」は、どのように結びつけることが効果的か。そのためには、どのような調査票の開発が必要か

▶ 「間接評価」の活用

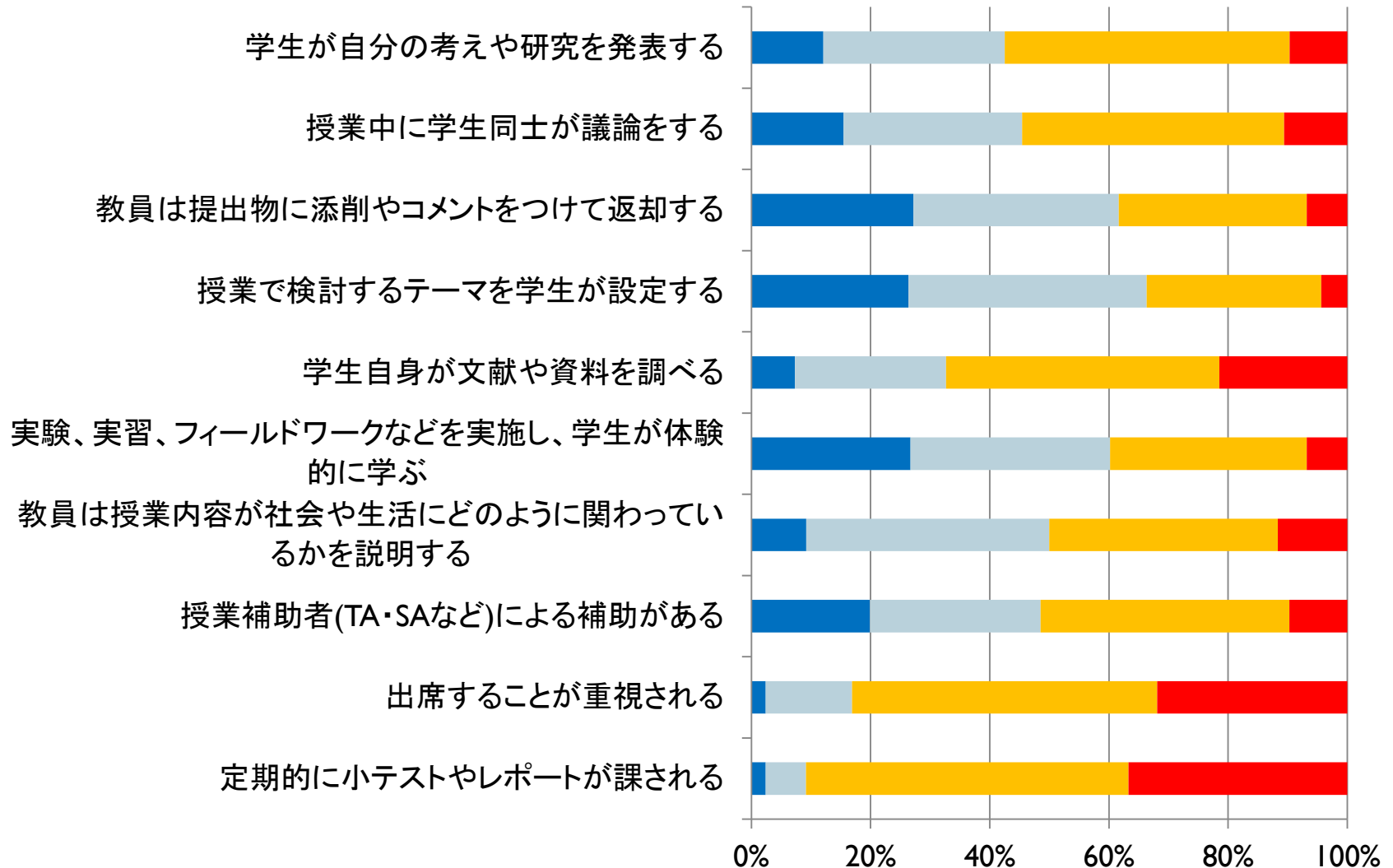
- ▶ (1) 多元的な教育目標等の(主観的な)到達度評価
- ▶ (2) (教育改善のための)項目間の関連性の分析・検討
＝「大学という環境」の効果検証
- ▶ (3) 学生の受講経験・能力状況の(主観的な)可視化

▶ 「直接評価」と結び付けることによる可能性

- ▶ 間接評価・直接評価の相互の信頼性・妥当性の向上

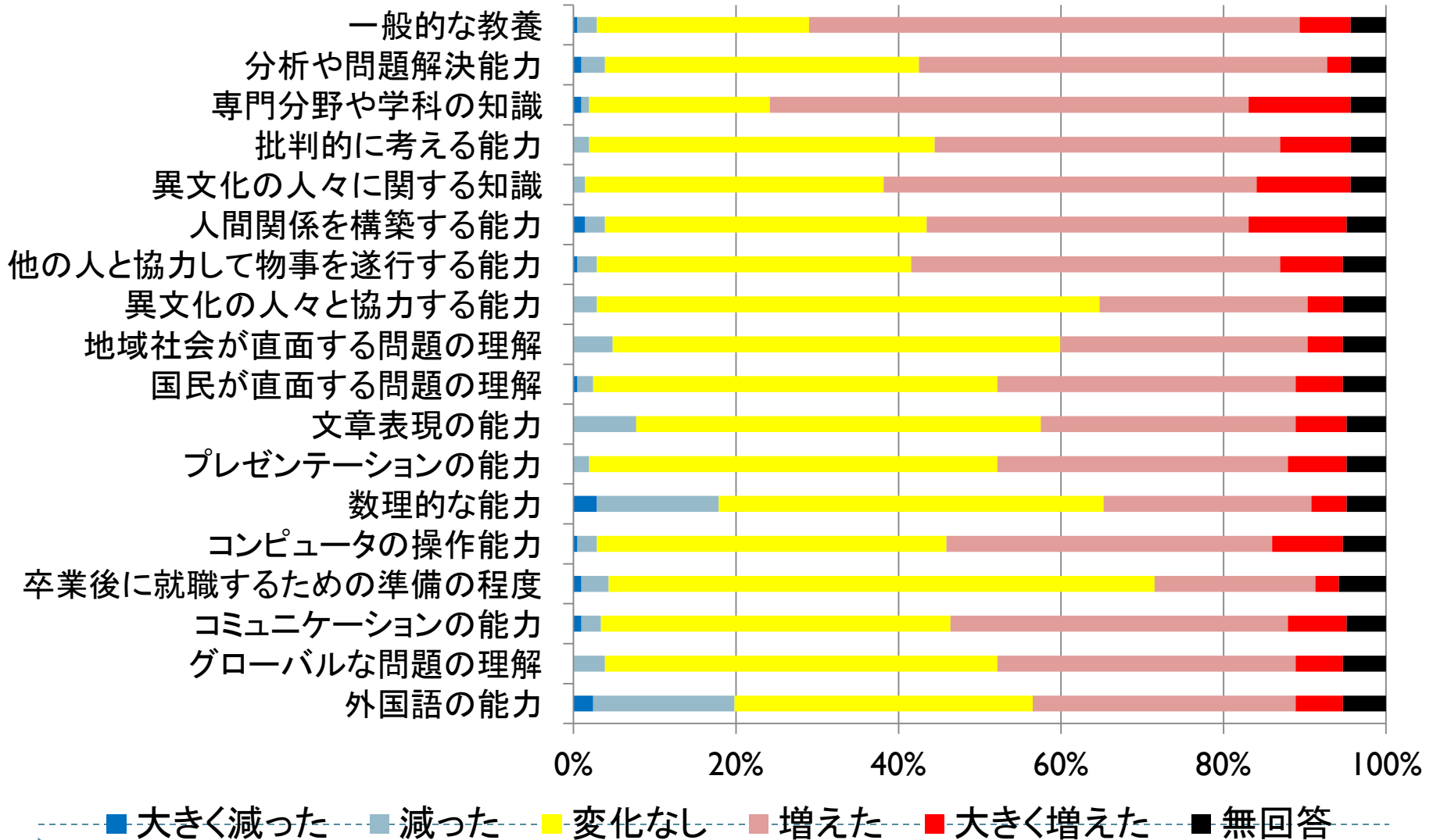
(1) 教育目標等の到達度評価

例) 入学後の経験①: 受講経験10項目

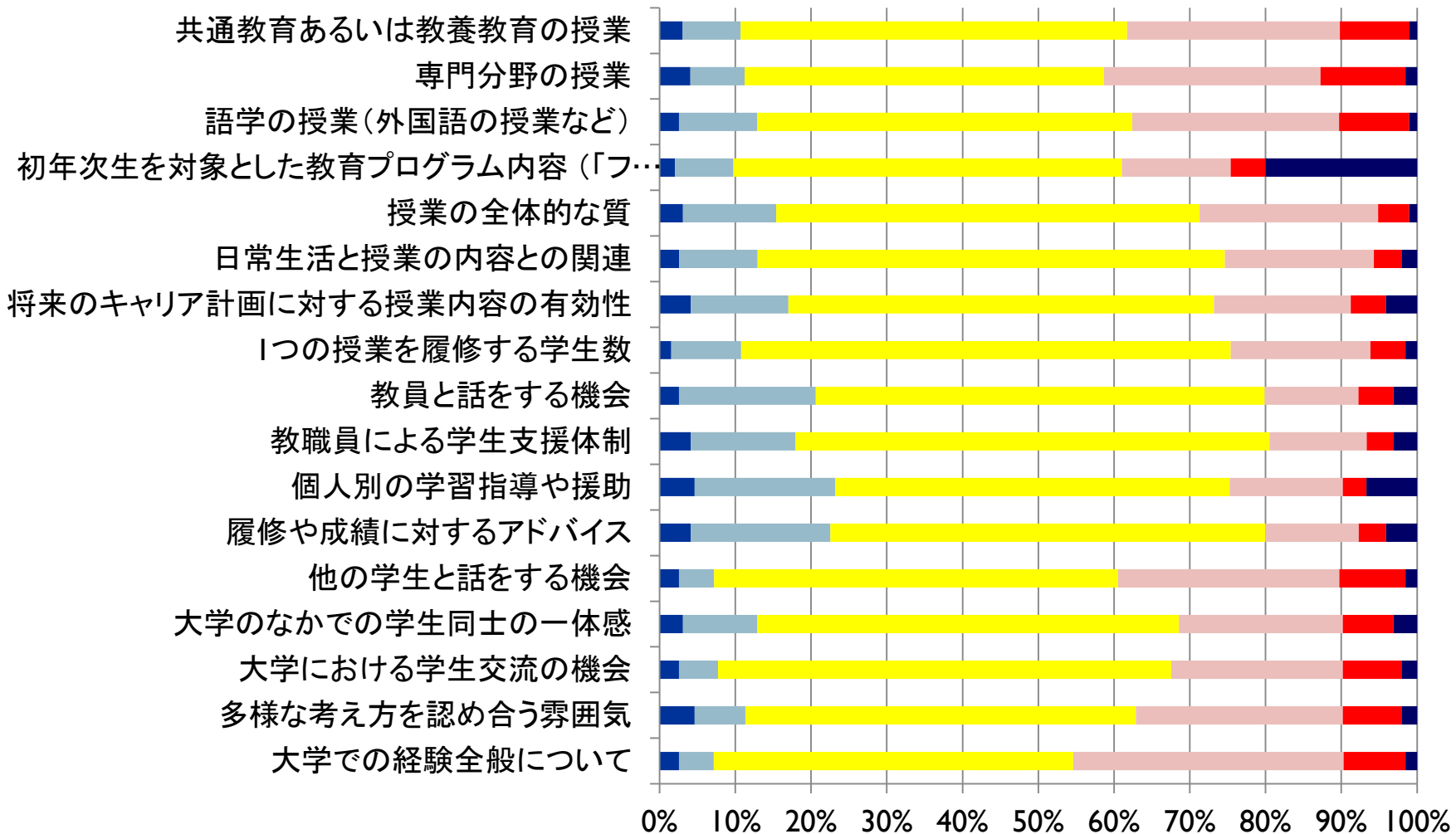


(1) 教育目標等の到達度評価

例①) 能力指標の成長認識(19項目)



例②) 満足度(17項目)

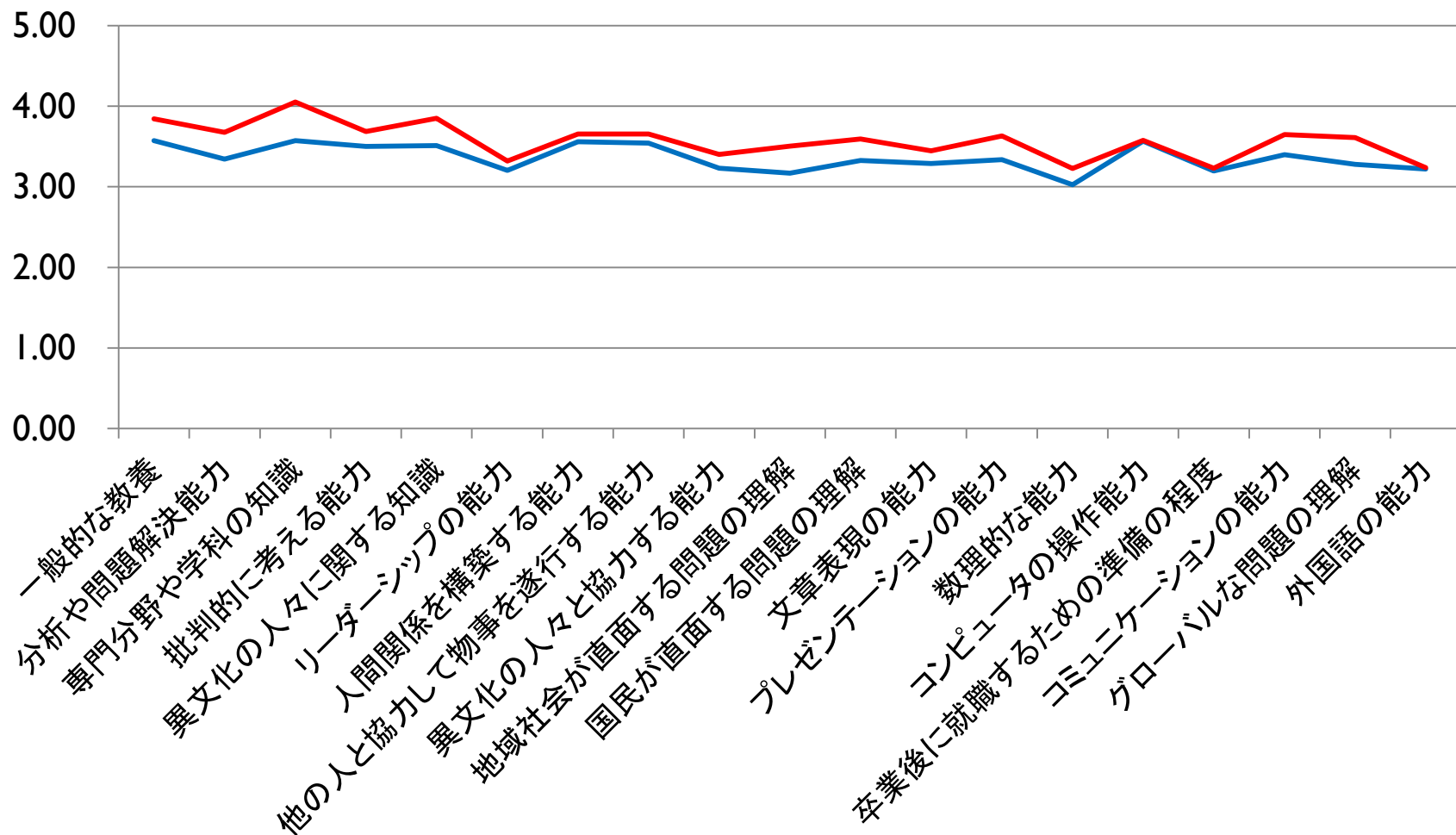


■ とても不満 ■ 不満 ■ 普通 ■ 満足 ■ とても満足 ■ わからない

(2) 項目間の関連性の分析・検討

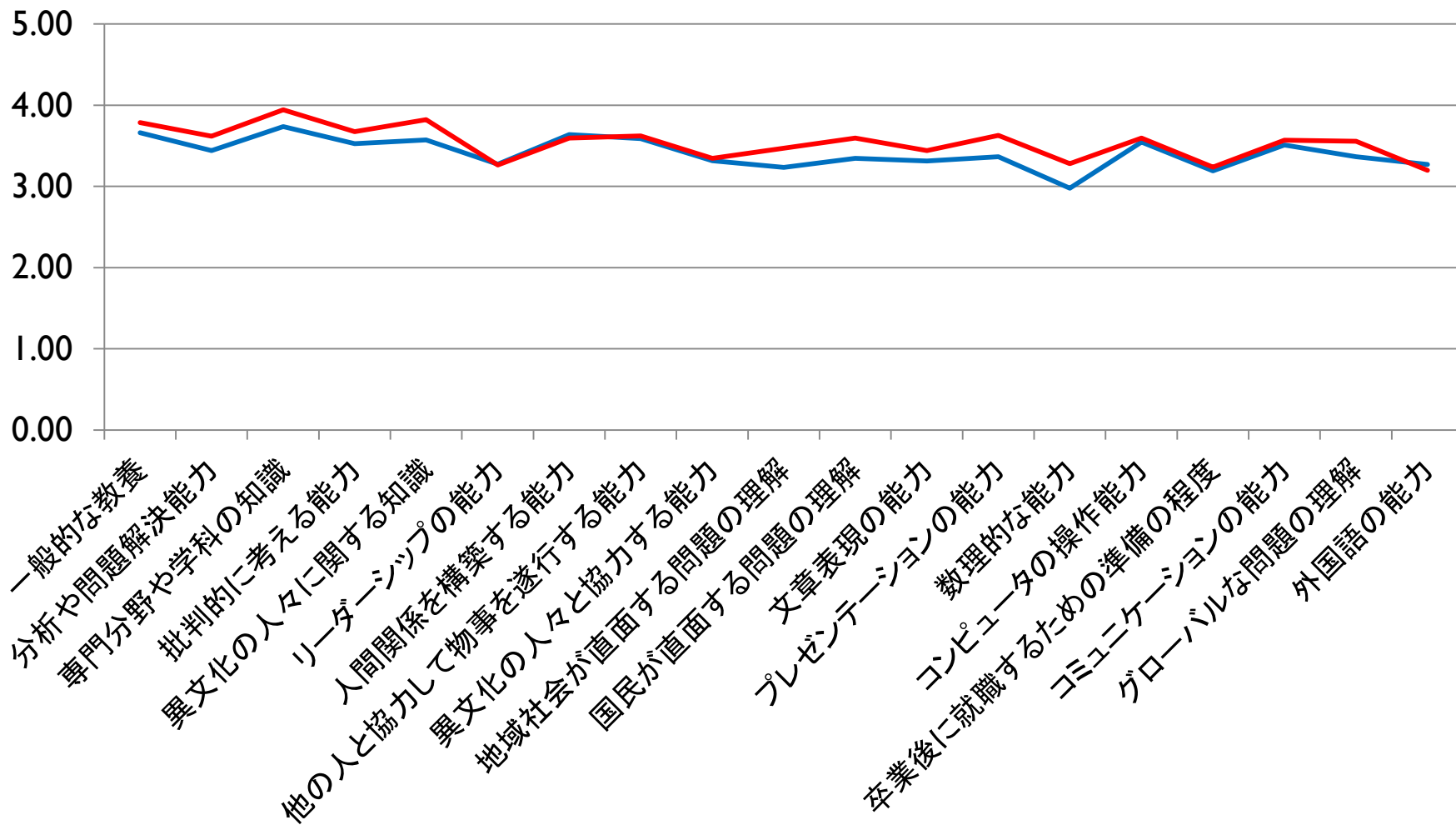
例① 受講経験(「学生が自分の考えや研究を発表する」)

× 成長認識19項目



— ない — ある

例②受講経験（「授業中に学生同士が議論をする」） × 成長認識19項目



例③)

受講経験(10項目)×成長認識(19項目)の全体像

- ▶ それぞれの項目間の関係を検討して、整理

		受講経験 / 10項目									
		学生が自分の考えや研究を発表する	授業中に学生同士が議論をする	教員は提出物に添削やコメントをつけて返却する	授業で検討するテーマを学生が設定する	学生自身が文献や資料を調べる	実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	教員は授業内容が社会や生活にどのように関わっているかを説明する	授業補助者(TA・SAなど)による補助がある	出席することが重視される	定期的の小テストやレポートが課される
成長認識 / 19項目	一般的な教養	**		***	**	**		***			
	分析や問題解決能力			**							
	専門分野や学科の知識	***	***			**	*		**	**	
	批判的に考える能力										
	異文化の人々に関する知識										
	リーダーシップの能力			**			**		*	**	
	人間関係を構築する能力										
	他の人と協力して物事を遂行する能力										
	異文化の人々と協力する能力			**							*
	地域社会が直面する問題の理解	***	***	**	*	*	**	***	**	**	*
	国民が直面する問題の理解										
	文章表現の能力		**					**	**	***	
	プレゼンテーションの能力									**	
	数理的な能力	**		**							*
	コンピュータの操作能力										
	卒業後に就職するための準備の程度			***	*		***				
	コミュニケーションの能力									**	*
	グローバルな問題の理解										
	外国語の能力										

***=t<0.001, **=t<0.01, *=t<0.05

(3) 学生の受講経験・能力状況の可視化

例) 受講経験の個人差とその意味の検討①

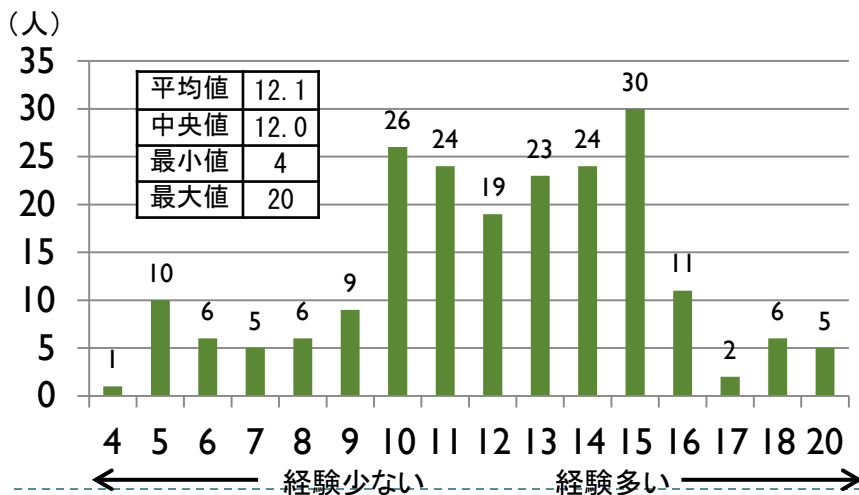
▶ 「受講経験」の個人差を確認するために変数を合成

▶ 主体的授業の受講経験変数(A変数)

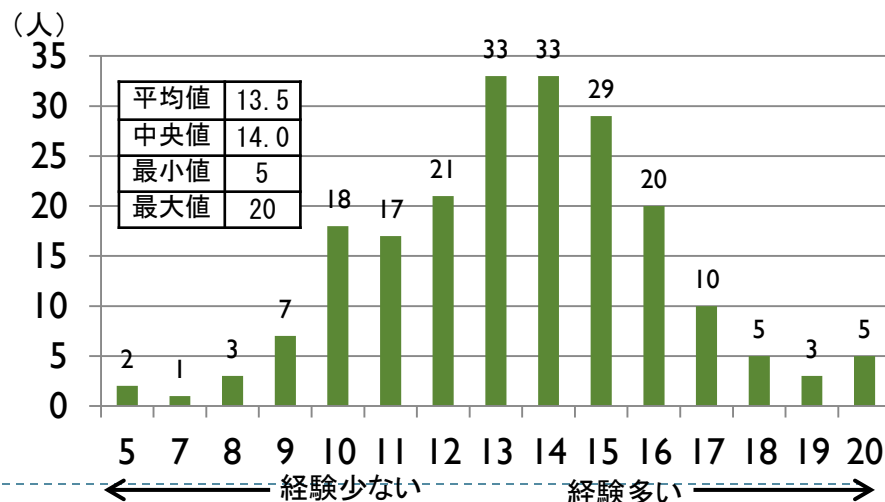
- ▶ 「学生が自分の考えや研究を発表する」「授業中に学生同士が議論をする」「授業で検討するテーマを学生が設定する」「学生自身が文献や資料を調べる」「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」の5項目

▶ 教育的配慮の多い授業の受講経験変数(B変数)

- ▶ 「教員は提出物に添削やコメントをつけて返却する」「教員は授業内容が社会や生活にどのように関わっているかを説明する」「授業補助者(TA・SAなど)による補助がある」「出席することが重視される」「定期的に小テストやレポートが課される」の5項目



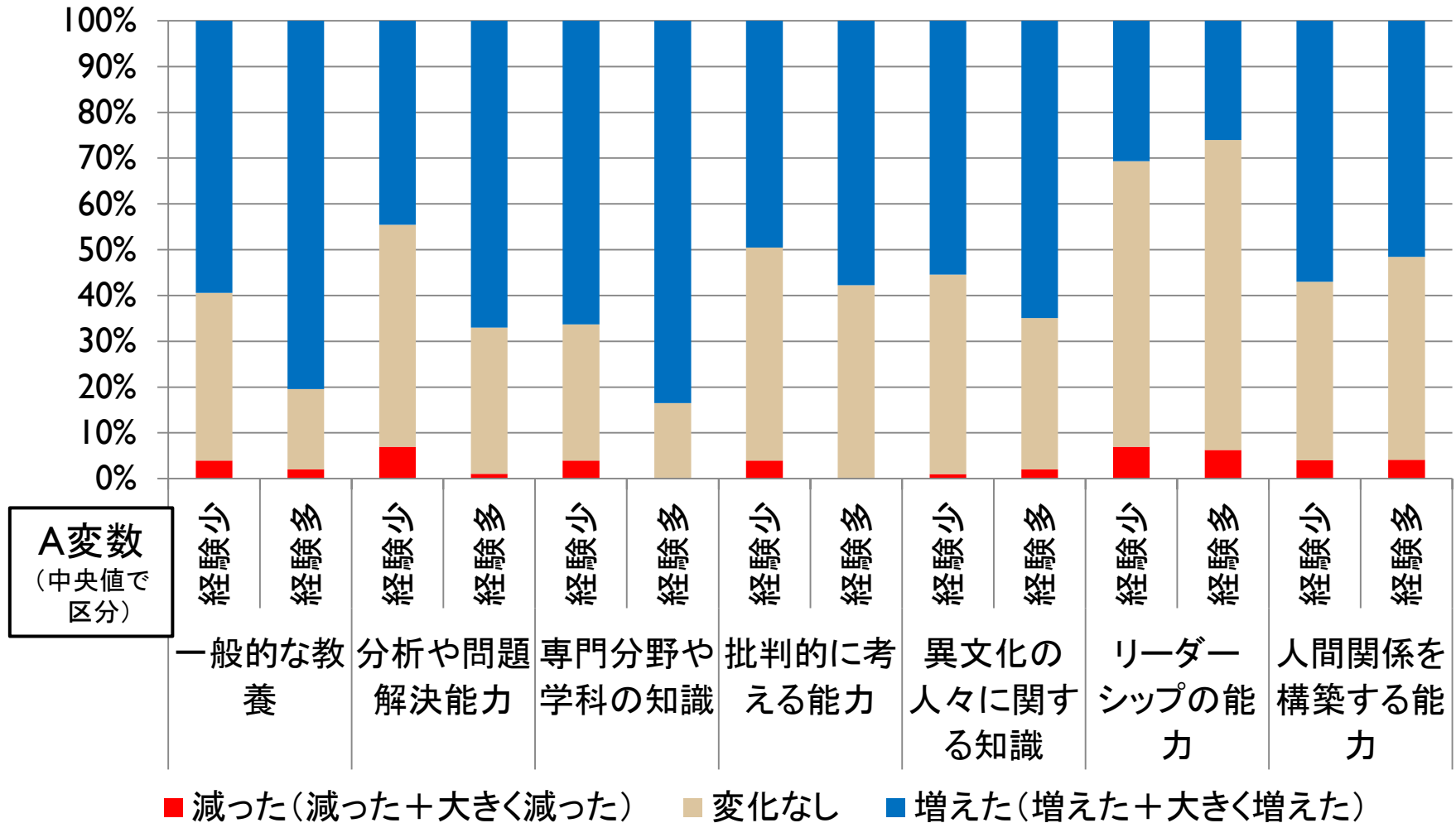
▶ 16 主体的授業の受講経験変数(A変数)



教育的配慮の多い授業の受講経験変数(B変数)

(3) 学生の受講経験・能力状況の可視化

例) 受講経験の個人差とその意味の検討②



間接評価の限界と可能性

▶ 間接評価の可能性

- ▶ (1) 多元的な教育目標等の(主観的な)到達度評価
＝教育課程・学習環境・実施している教育上の取組に対する
総括的な評価としての意味
- ▶ (2) (教育改善のための)項目間の関連性の分析・検討
＝「大学という環境」の効果検証
- ▶ (3) 学生の受講経験・能力状況の(主観的な)可視化
＝各種調査項目を用いた「学生群」の形成とその特徴の検討

▶ 間接評価の限界

- ▶ 個々の学生・個々の教育実践との乖離
- ▶ データの信頼性・妥当性の検証

「間接評価」と「直接評価」の連携の方向性

▶ 今後の方向性

- ▶ 個々の学生の能力段階を測定を精緻化するための「ルーブリック型設問」の開発
- ▶ 個々の学生の能力を間接評価のなかで測定する「小テスト型設問」の開発
- ▶ これらの新しい設問項目を含んだ「間接評価」と実際の授業科目(=「直接評価」)との連結